

いしづち

愛媛労災病院広報紙第14巻第3号

（通巻第73号）

2015年7月5日発行

発行人：院長 宮内文久

理念

当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

基本方針

1. インフォームドコンセントの実践
2. 安全かつ良質な医療の提供
3. 勤労者医療の推進

当院では、医の倫理と病院の理念に基づいた医療を積極的に推進していくため、患者さまの基本的な『権利と責務』を、以下のように宣言します。

【患者様の権利】

- 1) 人としての尊厳を保ちながら、良質な医療を受ける権利
- 2) 十分な説明と情報提供を受け、自らの意思で治療法の決定やセカンドオピニオンを希望する権利
- 3) 個人に関するプライバシーを保護される権利

【患者様の責務】

- 4) 疾病や医療を理解するよう努力する義務
- 5) 医療に積極的に取り組む義務
- 6) 快適な医療環境づくりに協力する義務

日本医療機能評価機構訪問審査を受けて

病院長 宮内文久

5月18日、19日に訪問審査を受けました。訪問審査後に森本看護部長がもらった言葉「愛媛労災病院は本番に強い」は確かにその通りです。訪問審査の1週間前には「一体どうなるんだろう」と内心ヒヤヒヤしていました。ところが、実際の訪問審査では、当院のアピールすべきところはきちんと訪問審査員に見ていただくことができました。訪問審査終了時に、審査員から当院の課題として、医療の質の改善に向けた継続的な取り組み等、数点の問題点を指摘されました。これらの問題点も、少し見方を変えれば日本医療機能評価機構というコンサルタント会社から「こういった取り組みをして質の改善を図ったらいかがでしょうか？」という提言をいただいたと考えています。これまで日本医療評価機構は病院を資格審査するという立場が強かったのですが、現在ではむしろ病院の医療機能を支援強化するという立場に変わっているからだと思います。訪問審査のおかげで当院のさまざまな不備な点も見つかり、また病院も見違えるように綺麗になってきました。医療の質の改善に向けた取り組みは「訪問審査を無事にパスすることができたから、これで終わり。良かった良かった」ということではありません。

今回の訪問審査を受けたときの気持ちを忘れず、当院のさまざまな医療機能を改善するためにこれからも頑張っていきたいと考えています。節約等も大事ですが、お金を投資しなくてはいけない分野ではきちんとした対応が必要だと考えています。それを改めて教えてくれたのが、今回の医療機能評価機構の訪問審査だったと思います。

最後になりますが、愛媛労災病院では電子カルテを導入し、電子カルテを使った情報共有にも努めています。来年4月には診療報酬の改定が予想されます。その時には当院がもっと様々な形で取り組まなければならない問題点がいくつも出現するのではないかと懸念しています。だからこそ、今後も皆さんと手を携えて前を向いて歩みたいと考えています。



日本医療機能評価機構訪問審査を受けて ……	1
漢方外来はじめました!! ……	2
北5病棟紹介 ……	3

中央放射線部（検査部門）紹介 ……	3
愛媛労災病院に赴任して ……	4
看護の日・看護週間行事 ……	4
メインテーマ～看護の心をみんなの心に～	

漢方外来はじめました!!

漢方って、効くの？

当院では、4月1日より、漢方外来をはじめました。とは言っても漢方に対しては「胡散臭い」、「本当に効くの?」「効くののに時間がかかるでしょう」「漢方薬って、高いんじゃない?」などと言うイメージをお持ちの方もずいぶん多いんじゃないでしょうか? 悲しいことに医療スタッフの間でさえよく聞かれる会話です。

ところで、2007年から漢方医学教育は全国80の医学部全てで行われるようになりました。また、漢方薬などこれっぽちも信じようとしなかったあの米国のFDAがついに漢方薬の代表である大建中湯の販売を承認するまであと一歩というところまで来ています。ScienceだEvidenceだと何かとケチをつけ続けた西洋医学の本場、アメリカで日本の漢方薬が認められればこれは、本当に画期的な大事件なのです。やっと、漢方の世界にも追い風が吹き始めたという感じです。それを裏付けるかのように、日本漢方生製剤協会が医師を対象に実施した「漢方薬処方実態調査」によると、漢方薬を処方した経験がある医師は89%にも達しています。

しかし、本当に漢方薬の効果を発揮するためには、漢方独自の考えや、診断法に基いて処方することが重要とされており、漢方の専門外来を作ることは社会的ニーズに合致すると考え、このたび漢方外来を開設の運びとなりました。

当科の治療方針は？

漢方外来ではホームページにも記載と重複する部分もございますが、以下の様な方針で診察を行っています。

1. 西洋医学的な診察や検査等受けられずに直接受診された場合は、前もって他科への受診をお勧めする場合がありますのであらかじめご了承ください。
2. 病気は、西洋医学でなければ治せないもの、漢方医学が得意なもの、両者補って治療すると一層効果があがるもの等、様々です。ケースによっては、当然西洋薬との併用を行うこともありますのでご了承ください。
3. 当院で行う漢方治療は全て保険診療の範囲内で行います。煎じ薬が必要である、より高度な診察が必要である等判断した場合は、他院への紹

形成外科部長(日本東洋医学会認定医) 黒住 望

介になる場合もございます。

4. 漢方薬によっては、まれに重篤な副作用がでる場合もあります。患者様の安全のために、定期的に血液検査を行ったりする場合があります。

診療対象は？

診療対象は、実に多岐にわたりすべてを記すことはやめておきますが、

身近なところでは、こむら返り、更年期障害、冷え性、アレルギー性鼻炎、過敏性腸症候群、便秘、逆流性食道炎、嘔吐下痢症、眩暈、疲労、肝班、老人性皮膚掻痒症、湿疹、尋常性ざ瘡、頻尿などがあげられると思います。この他、最近では、抗癌剤の副作用(口内炎、神経障害、食欲不振、悪心など)の軽減、予防作用が確認され盛んに使用され始めて緩和ケアチームに漢方医が参加している病院も増加していますし、脳浮腫の軽減に五苓散という漢方薬が有効であることも確認されています。

これらの例に当てはまらなくても、既に、各科で診察をうけ異常はないと言われたり、今受けている治療で効果が今ひとつだと感じられておられる方などで漢方に興味がおありの方は遠慮なく受診して下さい。

診察日は？

毎週、火曜日、木曜日の午前中(11時まで)です。

最後に

私は、漢方医としてはほんの駆け出しです。まだまだ力不足であることは重々承知しておりますが、皆様からご支援を頂きながら、日々研鑽を積んで行きたいと存じますので、よろしくお願い致します。



北5病棟紹介

北5病棟は循環器内科、整形外科、形成外科の混合病棟ですが、主な診療科は循環器内科になります。心臓カテーテル検査やカテーテル治療、ペースメーカー植え込みなどの患者様は全て当病棟に入院されています。

28名のスタッフがおり、その中には皮膚・排泄ケア認定看護師、NST療法士、介護支援専門員の資格を持つ者がいますので、専門性の高い看護を提供できる環境にあります。そして今年一番の出来事



は、2人の男性新人スタッフが配属されたということです。今まで女性しかいない職場でしたが、少し違った雰囲気毎日元気に仕事をしています。

当病棟の一番の自慢は、毎月緊急シミュレーションをしているということです。緊急入院が多く、心臓が悪い患者様が多く入院されるため、急変の可能性もあるため、毎月シミュレーションを行ない、すぐ役立つ訓練を重ねています。明るい北5階病棟は是非一度足を運んで下さい。



中央放射線部（検査部門）紹介

中央放射線部長 巻 幡 弘

—私たちは、放射線検査のプロ（専門）集団です—

中央放射線部は10名の診療放射線技師が所属している部署です。放射線部では放射線部理念「患者さまに誠実で妥協のない画像提供」の下、医師と診療放射線技師とが緊密に連携して、早期診断、早期治療に役立つ最善の画像を迅速に提供しています。急性期病院として必要不可欠な最新の検査機器、治療機器を導入し、最新の医療技術で安全に最善を尽くした医療の提供に努めています。加えて、地域医療に貢献すべく地域の開業医・医療機関の先生方からの検査依頼に迅速に対応できる体制も整えています。

—最新の骨塩定量測定装置を導入いたしました—
骨塩定量測定検査とは

骨はコラーゲンなどのタンパク質、カルシウムやマグネシウムなどのミネラル成分で構成されています。骨の中にあるミネラルの量を骨量（骨塩量）といい、一定容積あたりのミネラルの量を骨密度と言います。骨量は20歳～30歳代でピークとなり、それ以降は加齢と共に低下していきます。骨塩定量測定は骨量測定とも呼ばれ、骨折を引き起こす要因となる骨粗鬆症の

リスクを調べることができます。

当院の骨塩定量測定器はDEXA法（デキサ法）と呼ばれる微量なX線を利用して骨塩量を測定し、最も正確で信頼性の高いデータを得ることができます。

当院では腰椎と大腿骨頸部の2ヶ所の骨塩量を測定し、評価をしています。

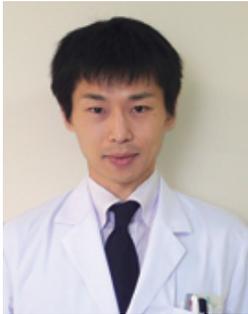
骨折を起こしやすい部位を直接測ることで、高い精度の骨塩量が分かります。また腰椎と大腿骨頸部を測定すれば、他の部位の骨折リスクの評価もすることができます。検査時間は10分程度で、患者さまは検査着に着替えていただき、じっと寝ているだけの検査です。



装置名：PRODIGY-C

愛媛労災病院に赴任して

整形外科副部長 村上 智俊



今年の4月より愛媛労災病院整形外科に赴任いたしました村上智俊です。

出身は山口県です。新居浜は初めてであり、赴任して2ヵ月が経過しましたが、まだ土地勘が曖昧です。

さて整形外科ですが、診療範囲は多岐に及び、治療知識と技術が発達してきた現代では整形外科の中でも分野別に専門性を求められるようになってきています。整形外科には大きく外傷・手外科・脊椎外科・関節外科などの分野がありますが、幸い当科では私を含め5名の整形外科医師がおりますので、力を合わせて、これらの専門的診療が行えております。

また高齢化が進んでいる現在では、診療で頻回に遭遇する疾患が存在します。たとえば、外傷でいえば大腿骨頸部骨折・脊椎圧迫骨折・橈骨遠位端骨折などがそうです。さらに腰部脊柱管狭窄症や変形性膝

関節症なども、外来で診療することが多い疾患といえるでしょう。

これら頻回に遭遇する疾患の治療はもちろんのこと、そうでない疾患も幅広く可能な限り、皆様のお力になれるように診療に努めてまいりたいと存じます。

治療方法は、適応を十分考えた上、一緒に話し合っ
て決めていきたいと思っております。

皆様に安心して受診していただけるように、これからも日々精進してまいりますので、私とともども愛媛労災病院を今後ともよろしくご
願い申し上げます。



看護の日・看護週間行事 メインテーマ ～看護の心をみんなの心に～

21世紀の高齢社会を支えていく為には、**看護の心、ケアの心、助け合いの心**を、私たち一人一人が分かち合うことが必要です。

こうした心を、老若男女を問わず誰もが育むきっかけとなるよう、旧厚生省が1990年に「看護の日」を制定してから25年が経ちました。

これまで全国規模で「看護の日・看護週間行事」が

行われ、5月12日が「看護の日」であることが皆様に認識されるようになってきました。

当院でも5月8日から20日まで、看護部の部署、認定看護師の活動のみならず各部門の皆様のご協力をいただき、チーム医療活動や薬剤部・中央放射線部・中央リハビリテーション部・栄養管理部・中央検査部・臨床工学部の活動を紹介するパネルを展示し、患者様や地域の皆様に各職種の活動を知っていただくことができました。また、5月12日には薬局前ロビーで看護・介護・薬剤などの相談イベントを開催し、台風襲来中にもかかわらず来院中の多くの方にご参加いただきました。病棟では、洗髪や足浴・血圧測定などの看護体験を行い、どのイベントも好評のうちに開催終了することができました。



！ 広報誌編集メンバー 委員長:池田外科部長 委員:木戸副院長、山田医局長、日野看護師長、土肥看護師長補佐、大成薬剤師、小川作業療法士、正岡診療放射線技師、豊島臨床検査技師、滝川管理栄養士、小尻総務課長、稲富庶務係長、竹熊庶務係員、菅田医事課員